

## 須賀神社

所在地 東京都新宿区須賀町5

建速須佐之男命（牛頭天王）、宇迦能御魂命（稲荷大神）

例大祭 六月第1週 土日（隔年本祭）



台座：三尺三寸（100） 建造年度：昭和51年  
製作者：下谷・大槻装束店  
特記： 延軒屋根・平屋台造り 渡御の氏子町会ごとに擬宝珠を鳳凰と葱花に取

須賀神社は、四谷18ヶ町の総鎮守。

御祭神は、建速須佐之男命（牛頭天王）と宇迦能御魂神（稲荷大神）の両神を祀っています。

宇迦能御魂神（稲荷大神）は、赤坂一ツ木村の鎮守で、清水谷にあった宝蔵院の稲荷社を、寛永十一年（1634）江戸城外堀普請のため、現在の地へ遷座いたしました。

須佐之男命の鎮座は、同十四年（1637）四谷門外明地が、日本橋伝馬町の助役地になったため、大伝馬町の産土神、神田明神の境内にある牛頭天王を勧請して、御仮屋横丁に小祠を建てました。これが次第に繁昌したので、氏子が相談の上、寛永二十一年、寺社奉行、町奉行に願い出て、同年6月18日、宝蔵院稲荷社殿に遷座し、「稲荷天王合社」となり、俗称四谷天王社と云い、明治維新まで親しまれて来ました。

須賀神社に改めたのは、明治元年新政府の強制で、かつて出雲で須佐之男が八岐大蛇を退治した時、

吾れ此地に至りて心須賀、須賀し

と宣って宮居を占めた故事に基づき名づけられた。総本社は島根県にある。

「天王祭」は江戸五大祭りとして、大変な賑わいを見せていました。

明治五年に郷社に昇格、戦後は制度の改正により、旧社格は撤廃されました。

また、境内には大鳥神社があり、大鳥神社の西の市は、浅草に次ぐ東京第二の賑わいと言われていました。

氏子町会 四谷一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、本塩町、三柴町、坂町、荒木町、愛住町、舟町、片町、左門町、信濃町、須賀町、若葉町一丁目、同二丁目、同三丁目、南元町

## 四谷のお祭りとお四谷担ぎについて

四谷のお祭りは、江戸時代より稲荷山宝蔵院天王社として四谷天王祭と云われ江戸5大祭りのひとつとして大変な賑わいをみせ、二基のお神輿が六月十八日に上町を巡行し、お仮屋に安置され翌日には下町を巡行していました。

「四谷担ぎ」は、近年「江戸前担ぎ」(マンボ担ぎ)が台頭してからそれを区別するため昔より習い伝えられてきた担ぎ方を称する様になった。

「四谷担ぎ」の定義として伝える文献などなく、古老から若い衆に習いつたえられたものではっきり(定義)されていないがここで簡単に定義付けをしてみたいと思います。

1. 躰は、神輿を中心にすこし寄りかかる様に肩を入れ、腰をのばす事を心がける。

2. その時、手は基本的に台棒を支えるが、疲れたら腰に当てる様にしてぶらぶらと遊ばさない。花棒は、両手を首のうしろの棒を支える。

3. 足は、スリ足でひざを深くまげないように歩くように進む、花棒は足をつっぱる様にする。

4. 神輿は、左右に振れるが一人が胴の中にはいって前進を促すようにする。

5. 担ぎの掛け声は、昔からの「サッサッサー、サッサッサー」「ドシタイ、ドシタイ」を中心に「オイサ、ホイサ、チョイナ」などいろいろと合い混ぜてもよい。

6. 担ぎ手は、神輿(台棒)の上に乗らない事が四谷のお祭りの伝統である。(頭を除く)又、神輿の差し上げで四谷では、(台棒でなく)台座を差し上げる場合もある。

最後に、近年こそ「四谷担ぎ」と呼んでいるが、もともと江戸城下の祭礼は「ワッショイ」で担いでいたらしく、「四谷担ぎ」もその流れをくんでいるらしい。

現在では深川富岡八幡宮がワッショイで担いでいる。又、「四谷担ぎ」と同じ担ぎ方で熊野神社の「ちどり担ぎ」がある。



↑ 十二社 龍野神社 千鳥担ぎ



↑ 三社 築江戸前担ぎ



深川祭 神輿練り



↑ 10 崎せりもち → 湘南とんす



↑ 行徳担ぎ ↓



↑ 羽田よこた担ぎ



素盞雄り神社  
神輿

## 【ワッショイとは】

ワッショイには「みんなで和を背負う」という意味があるんですよ！

神輿は文字の如く神様の乗り物で、氏神様が祭礼の時に社から出て神輿に乗り、宮出から宮入まで氏子町内を巡り、繁栄を眺める事を渡御（とぎょ）といいます。そこには礼儀作法があり、伝統文化や様式美と云ったものを我々もしっかりと受け止めて次の若い世代へと伝えていこうと思っております。

初めて担ぐ方、肩は痛いし体もきついかもかもしれません。でも、担ぎ終わった後の何とも云えない爽快感はたまりませんよ！お祭りに参加する事で地域の方々と親交を深め、私たちの地元を盛り上げていく力となります！！



## 【青年部とは】

若葉一丁目町会の組織の一つに青年部があります。会員は町内に在住または在勤するメンバーから構成されております。我々の活動は主に町内の親睦、町会行事のお手伝いで特にその中でも須賀神社の御祭礼では祭礼委員会の補佐役として、婦人部とともに賑やかなお祭りの運営をしております。

また、伝統文化の継承・発展を目標とし次世代の青年会員育成を考え不定期ではありますが、定例会を開催し、会員相互の親睦を図り、和気藹々とお酒を酌み交わしております。

## 〈 会員募集！！〉

青年部では会員を募集しております。若葉一丁目にお住まいの方、ご勤務の方と一緒に町会を盛り上げたいっ！神輿は担がないけどお祭りの運営に参加したい！子供たちの為にお祭りを楽しくしたいっ！子供たちが楽しく健やかに育つ町づくりに興味のある方は町会ホームページの青年部のページをご覧ください。

**若葉1丁目 検索**

## 【渡御とは】

神輿は神様が乗る大切な物です。肩を入れたら、しっかりと腰・膝で重さを受け地面を踏みしめます。四谷担ぎで進みます。大事なのは、音頭に合わせて掛け声を出し、テンポよく進む事です。前後左右のすべてが揃って互いの気持ちが通じて優雅な神輿がきれいに担げたら格好いいですよ！神輿から抜けている時も、手拍子、掛け声で、音頭に合わせて盛り上げます。音頭の聞こえにくい、後方の担ぎ手が合わせやすくなります。掛け声や、手拍子で神輿を景気づけましょう！

## 【手締め】てじめ

気持ちをこめると気持ちのよいものです！  
チャン・チャン・チャン チャン・チャン・チャン チャン・チャン・チャン チャン 九  
に一で丸くおさめます。  
一本締めは神輿の担ぎ始めと、担ぎ終わった際に鳴らされる拍子木に合わせてます。  
一本締めを3回行うものが三本締めで、神酒所出発や神輿納めの際に仕切り手の音頭で行います。手締めの前の「いよおー」は祝おうが転じた、お祝いの意がこめられています。

## 【掛け声】

覇気のある掛け声はお好みで！  
そう！掛け声は自然でいいんです！はじめは練達者のマネからやってみましょう。  
慣れてきたらおなかの底から大声を出しましょう！  
「ホイサ！」「チョイナ！」「チョイサ！」「オイサ！」  
リズムが落ちそうな時、乱れてしまったりした時は  
「さあ！さあ！さあ！」の合図で神輿、リズムを立て直します。

### 【よいと】

急な交通対応の場合もあります！

元気なお神輿ですが、街路樹や看板を避けるときや、喪中宅の前では『よいと、で！』と声がかかったら静かに声を出さず、神輿も揺らさずに通過します。

### 【神輿差し】

差し・・・神様を高く差し上げる事です。

木頭の拍子木の指図と共に「差せっ！」の声で差し上げ  
神輿を支えてる腕と反対の手でりん木（たての長い棒）を  
叩きます。

『肩〜』次の合図ですみやかに肩に戻しましょう

### 【こども神輿について】

お祭りは大人だけのものではありません。こども神輿・山車の巡行も大切な神事です。

お子様が地元の御神輿を担ぐ勇姿をみてみませんか？

参加するお子様の服装は動きやすい格好であれば自由です。

町内会員が誘導・牽引しますので4〜5歳くらいのお子様から参加できます。

道中水分補給が出来るような休憩体制も整えられておりますから、安心してお越しください。

最後に、参加者全員にご褒美の配布も致しております。



祭礼はお祭り騒ぎだけでは成り立ちません。

担ぎ手だけでなく、交通整理や婦人会等、多くのサポートを受けて神輿が渡御できるのです。

地元のお祭りですから、参加する人、物見する人それぞれが怪我や事故のないように、四方に気を配りたいものですね。

それぞれの役割で事故のないように努めましょう。

### 【神輿を担ぐのに必要なものは】

1に根性！2に忍耐！！

当町会の場合、初心者の方は地下足袋があれば短パン+TシャツでもOK。

地下足袋は浅草の祭り衣装屋や作業着屋でも売っています。

いくら何でも短パン+Tシャツではちょっと・・・

という方は白の半ダコ・鯉口・地下足袋だけなら比較的安価に揃えられます。

神輿に興味を持ったなら本格的な足袋や衣装(股引・ダボ・鯉口・帯など)を揃えれば良いです。

### 【装束は？スタイルを極めたい本格派…】

まずはきちんと半纏を着てしっかり帯を締めましょう。神輿を担ぐマ-です！

町会半纏、祭り装束を整えるということはその地域の氏子とあいて神様を背負うことを意味し  
だらしく見えない様気を付けましょう。

例えば・・・

半纏（はんでん）の着こなしが悪くまるで七五三、或いは帯の結びがユルユルでほどけそう。

足袋のコハゼ（ボタン）をちゃんと留めててないで踵を踏んでいる。鉢巻の仕方が運動会みたい・・・。

格好良く「粋」でいきましょうよ！きちっとした装束は気持ちも引き締まりますよ！

担ぎ手は原則、町会半纏を着ます。着崩れないように、しっかりと帯を締めます。

最初は半纏の下はTシャツ・短パンなど動きやすい格好で構いません。  
足元は足袋を履きます。裸足・靴・サンダル・スニーカーは危険です。  
髪の長い女性は、髪飾りは小さめで硬くないゴムなどで束ねておきましょう

スタイルを極めたい本格派の方は・・・

**鯉口 こいくち**

前開きのシャツです。肌の上に直接着ます

**股引 ももひき**

鯉口着用時のズボンです。和装なのでちょっと穿き方にコツがありますが足元の安全性を含め、動きやすく格好よいです

**半股引 はんだこ**

股引の短パンスタイルです。夏場や股引がNGなお祭りで穿きます

**腹掛け はらがけ**

鯉口・股引とのアンサンブルですので本格的に揃えたい方にはオススメ！

初めは首元が若干苦しく感じますが、ここが着こなしのポイントです。

**ダボ （上下）**

上着は鯉口に似ていますが襟ぐりや袖ぐりが幅広で、楽に着用できます  
ズボンもゆったりめのシルエットで股引の様に紐で締めるタイプと  
ゴムタイプがあります。

**足袋 たび**

和装の足袋や地下足袋（7枚コハゼ）でもかまいませんが、アスファルトでは疲れやすいので祭足袋とされるゴム底の厚いものが中敷にクッションがあり使いやすいです。  
最近はスニーカーのようなエアアが内蔵のハイテク仕様もありますよ！

**鞋 わらじ**

わらじ掛け足袋とセットで履く超本格スタイル！

神輿に入らないギャラリーの女性やお子様にも是非、和装をオススメします。

「晴れ」の場ですから野暮にならないよう「粋」に格好良く着こなしましょう！

※上記の装束は浅草界隈の祭り衣装屋さんで一通り揃います。

尚、ネット販売で購入できますが、採寸に自信のない方は訪店をオススメします。

